

周縁的社会集団と近代—日本と欧米におけるアジア史研究の架橋 第11回 セミナー

今回のセミナーでは、本事業の海外連携研究者であるファビアン・ドリクスラー氏(イェール大学)に、報告をしていただきます。

近世後期の多くの庶民は、その家を「生死を跨ぐ共同体」として想像し、その永続性を切に望んだと通説では言われています。今回の報告では、祖先祭祀を行う直系家族として再生産されていった近世的な家の普及過程とその限界を模索し、家意識がどのように浸透していったかについて論じていただきます。

日本近世地域史・社会史に関心のある皆さまのふるってのご参加をお待ちしています。



(ドリクスラー氏作成。何を表した地図であるかは、報告を通じて明らかになる予定です)

日時 2018年11月1日(木) 15:00~17:30ごろ

会場 大阪市立大学 文学部会議室(文学部棟 1F L122)

内容 ファビアン・ドリクスラー氏(イェール大学歴史学部・教授/海外連携研究者)

「近世農村における家意識の浸透」

連絡・問い合わせ先

国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業「周縁的社会集団と近代」事務局
佐賀 朝(UCRC 所長・文学研究科教授)

E-mail: CYI03126@nifty.ne.jp